令和４年度学校アンケート結果について（ご報告）

1　基本的な生活習慣の育成

(1)　あいさつについて

幼小中一貫教育で『瀬戸中学校区の子どもたちは,「あいさつ」と「なかま」を大切にします。』を目標に、それぞれの校・園で発達段階に合わせた取組を継続して行ってきました。

アンケートの結果では肯定的な意見（よくあてはまる，あてはまる）が，児童⑯74.2%，保護者⑬71.5%と回答しています。今年度も，あいさつ運動を高学年を中心に行ったり，中学生と合同で実施したりするなど，一年を通じて取組を行ってきました。その結果，先生方へのあいさつだけでなく，子ども同士の「おはよう」等のあいさつや，職員室への出入り時，来校者に向けてのあいさつが定着しつつあります。今後も全校をあげてあいさつの取組の継続していきます。

(2)　規範意識について

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童㉕83.3%，保護者⑫85.4%との結果でした。普段の学校生活においては，比較的落ち着いた生活が送れており，個人差はあるものの一定の規範意識が身についていると感じています。

(3)　生活リズムについて

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童⑮62.5%，との結果でした。他の生活アンケートの結果からも，普段の生活において，就寝・起床時間や朝食の摂取の有無とその内容に，課題があると捉えています。家庭でのスマホやゲームの利用について改善が必要な児童もおり，家庭との連携で今後も改善を図っていく必要を感じています。

(4)体力づくりについて

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童④73.2%，保護者④80.4%と，昨年とほぼ同じ結果でした。本年度もコロナ禍での体育行事の制限があり，「元気っ子タイム」等の全校行事が思うように実施できない中でも，一年中，多くの児童が運動場で体を動かしている姿が見られ，教員もともに体を動かし，外遊びを奨励してきました。今後も運動を楽しむ意欲の向上を目指して取組を継続していきたいと考えています。

2　基本的な学習習慣の育成と学力の向上

(1)　学校での学習について

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童①97.0%，②81.0%，⑤78.2%，保護者①74.1%③82.3%，⑤85.4%でした。本校では，本年度から算数科の授業方法の改善を中心に研究・実践を深めてきました。児童及び保護者の回答から，一定の評価をいただいていると感じます。

しかし，その反面，児童③の肯定的な意見59.5%や全国学力調査の結果からも，学力が十分についているとは言えない面があります。今後進めていく指導方法改善の研究を通して，基礎・基本の理解と定着を図り，思考力，判断力，表現力を高める学習活動を通して、子どもたちの学力向上を目指していかなければならないと考えています。

(2)　家庭での学習について

アンケートの結果では，肯定的な意見が，児童⑥73.2%，保護者⑥82.3%でした。本年度は，従来の宿題に加えて，タブレットの持ち帰り，家庭での学習に利用するなどの取組を進めてきました。今後の課題としては，家庭での学習時間に加えて，内容についても子どもたちの自主的な学習につながるような事例の紹介等の実施を進めていく必要があると考えています。

3　人権意識と自己有用感の育成

(1)　人権意識について

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童児童㉔96.4％，㉙87.5％，保護者⑭92.4％という回答結果でした。

本年度も，幼小中一貫教育のめあてとして「なかまを大切にする」ことを幼小中のそれぞれで取り組んできました。小学校では，よいところ探しなどの普段の学級活動や授業としての人権学習などを年間計画をもとに進めています。アンケートの結果からは，人権意識の高まりを支える力が育っていると感じます。今後も教育活動全体を通して人権意識の向上を図っていきます。

(2)　自己有用感について

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童児童⑨69.6％，⑩67.8％，⑪85.8％，保護者⑦67.7％という結果でした。

自己肯定感や自己有用感については、ほぼ，昨年と同じ結果となりました。先生や友だちに認めてもらったり，ほめてもらったりすることについては実感しているものの，それが自己肯定感や自己有用感には十分にはつながっていない結果となっています。特に自己有用感については，昨年度より肯定的な回答の割合が減少しており，特に高学年においてその傾向が見られます。今年度も，コロナ禍での活動の制約があり，全校的な集会や活動が十分できず，高学年児童の活躍する場を確保できなかったことも一因としてはあるかもしれません。したがって，今後は自己有用感等が「自分のよさ」発見につながり，自己肯定感の高まりにつながるような教育活動の工夫改善が必要であると考えます。

4　一人一人に応じた指導･支援

アンケートの結果では肯定的な意見が，児童①97.0％，⑳87.5％，保護者⑳82.3％という結果でした。

実際の授業においては，学習内容理解の個別支援や学習に集中できない子どもへの声かけ，落ち着いた授業環境の確立に留意しながら授業を進めています。今後も児童の実態に合わせた指導体制や授業方法について改善を図っていきます。

また，児童や保護者の相談に真摯に取り組む姿勢を基本とし，家庭との連絡を密にして連携を深めるとともに，職員全体の情報共有やチームでの対応が必要な場合については，素早く対応できるようにしています。さらに必要に応じて外部関係機関との連携を図り早期対応・解決にあたることを大切にしていきたいと考えています。

5　その他

「学校が楽しい，楽しんで行っている」という質問に対しての肯定的な意見が，児童㉑75.4％，保護者⑰86.1％，でした。

今年度も，新型コロナウィルス感染症の影響で，学習活動，学校行事やＰＴＡ活動などが制限を受けました。しかし，教育活動の内容や方法の工夫を行い，できるだけ子どもたちの学習や活動の場を確保するよう努めてきました。子どもたちにとって学校が安心・安全な場所で，楽しいと思えるような学校づくりを今後も進めていきたいと考えています。